

学校教育目標	「自ら学び、互いに認め合い、たくましく生きよう」 ○自ら考え、自ら学ぶ力を高めます。(知) ○自分の道を切り拓き、自己決定できる力を高めます。(徳・体) ○他との関わりを大切に、共に生きていこうとする力を高めます。(公・開)					
	学校概要	創立 43 周年	学校長 田邊正彦	副校長 石上美智	3 学期制	一般学級: 13 個別支援学級: 6
児童生徒数:		人	主な関係校: 汲沢小学校(小中ブロック)、葛野小学校(小中ブロック)、深谷小学校			

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
(1)主体的に学び続け、身につけた知識や思考力を生活に活用できる生徒。 (2)他人の痛みを知り、優しさのある言動が取れるバランスの取れた生徒。	・汲沢小学校(戸塚区) ・葛野小学校(泉区)	「自ら学び、社会につながり、互いに高めあう子」 ○中学校を中心として異なる区・方面事務所の関係である小中間及び小小間の情報交換を丁寧に行い、児童生徒支援・指導上の諸課題の解決に図る。 ○市学習状況調査や全国学習状況調査などについて、小中合同の教科ごとの研修を深め、課題を明確にして解決に向け協議する。 ○特別な支援を必要とする生徒の理解を深め、小中の連携を一層深める。 ○スムーズな運営ができるよう管理職の関係を良好なものにする。

中期取組目標	○「だれもが」「安心して」「豊かに」生活で送れるような学校づくりをさらに推進します。 ○生徒一人ひとりの良さや可能性を伸ばし、生徒が意欲的に取り組む学校づくりを推進します。 ○規範意識を育て、望ましい生活習慣を身につけさせる学校づくりに努めます。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
確かな学力 担当 学習指導部・教科会	①年間1回の校内研究授業を実施し他教科から学び、授業法の改善について各教科で深める。②ICTを積極的に活用し、わかりやすい授業を実施し学力の定着を図る。③学期末実施している学習相談会(3回)から生徒のニーズを知り、学習意欲向上につなげる。
豊かな心 担当 学習指導部	人権尊重の精神を基盤とすることを重要とする。そのために①人権講演会や人権作文、そのための人権教育の充実を図り人権意識の向上を図る。②生徒会が行う挨拶運動、1円募金、ボランティア活動を通し、多方面からの心の育成を目指す。③道徳科と総合的な学習の時間との連携を深める。
健やかな体 担当 保健体育科	①保健体育や技術・家庭科の家庭分野の授業において、食育や眠育等の指導の充実を図る。②新体力テストのデータを分析し、体力づくりに効果的に活用する。③運動だけではなく「体を休める」効果も取り入れバランスの取れた体力づくりに努める。
生徒指導 担当 生徒指導部	①4月、8月、12月に研修を実施し教職員全体の共通理解に努める。②ふり返しレポートを実施するなど、生徒指導部を中心とした情報の集約・発信と日常的な情報交換を行う。③教育相談(4、8、1月の3回)と保護者会を効果的に活用し、生徒への支援活動の充実を図る。
特別支援教育 担当 特別支援校内委員会	①教室環境の配慮や教材・教具の工夫など、学習環境のユニバーサルデザイン化を推進する。②特別支援教育に関する知識・意識を高め、スキルアップを図るために、校内研修を充実させる。③特別な配慮を要する生徒に適切な支援をするための支援会議を充実させる。
教育環境整備 担当 学習・保健 指導部	①職員室の共通パソコンの設置場所の整備に努める。②適正なゴミの処理の実施。共通仕様場所(階段や廊下)の清掃活動を充実させ校内美化に努める。③学校の森づくりプロジェクトを推進しドングリを育て学校防災林となるよう育て、東北森の防潮堤に寄贈することを目指す。
学校運営協議会 担当 校長	①年間4回(5,9,12,3月)の学校運営協議会を活用し、4連合町内会と学校の相互の理解や連携の発展を図る。②学校評価をとらして今後の学校運営の活性化に助言をいただく。③内容等を精査・判断し、必要であれば「意見書」の提出を考える。
キャリア教育 担当 学習指導部	①各総合的な学習の時間で行われる体験を通し”振り返り”(新聞づくり、ポスターセッション)を充実させる。②1年での福祉体験、職業講話、2年生での職場体験を通し、自分の生き方について考えさせる。③教科横断的な学びの実施に努める。④各体験を通し社会に通じる言葉使いや態度などのマナー・社会性を身につけさせる。
いじめへの対応 担当 生徒指導部	①定期的な教育相談に限らず、日常的に生徒一人ひとりの気持ちに寄り添える関係を作り、生徒の心の平穏が保たれる環境に配慮していく。②情報収集、情報精査等をしっかり行い、拡大いじめ防止対策委員会の開催をし適切な生徒への支援を最大限行う。
人材育成・組織運営(働き方改革) 担当 教育課程委員会	①メンターチームの会合を年6回開き、若手人材育成の一助とする。研修には主幹教諭を積極的に投入し研修を深める。②見通しを持ち学校の状況に合わせた教職員組織の改善や適材適所の役職指名を行い学校運営をの活性化を目指す。③様々な意見を集め教職員の働き方改革を実施する。